

日本のプロコーチ宣言第1号 榎本日出夫(日中プロ)

私のバスケット狂書

その(21)

いよいよ、五十二年度が始まるわけだが、チームを形成するにあたって、目的の穴をどうふさいでいくかが、大きな問題だ。

そして、人への入れ替わりが少ないうえ、「V2」に向って、どうしてもそれを達成しなければならぬというところ、私にとっても、初めの大きな課題だ。

そのうえ、オリンピックのため、林田、大森が臨時招かれていくというところ、チームとしても、私にとっても大変な努力を要するところだ。

V2目指し始動

合原、船木が五輪組の留守支え

ある程度「勝つ計算」も

榎本日出夫
武蔵中学(東京)、武蔵高校(同)、武蔵大学(同)をそれぞれ卒業。
現任、女子商業専門学校の日本プロコーチ。昭和十一年七月七日生まれ。入所所(横浜)戸塚区磯崎町二二一〇六電話(四五八三)二七〇九号。



の「オオモ」に立ちながら、チームが通つていくという、あれぞという「チーム」が、少しづつチームを仕上げていく、非常に文が、努力も足らないが、昨年のチームは勝つことが、計画でできないチームだった。

会社の全面的支援も見逃せず

「前号までのあらすじ」
十年前のある夜、杉野短のコーチ依頼を受け、引き受けたことが私の人生を変えた。その時、日立言葉を見ようとした時、どうやら「プロコーチ」の看板をあげ、バスケットをやる決心をした。そして様々な苦難を乗り越えながら日本プロに入り、一時は苦労からやめようかとも考えたが大変なバスケット選手と別れて、またやる決心は、再度「日本一」を目指し前進した。この年は全日本総会、日本リーグと初三位になり、五十年をむかえた。そして強豪を次々と破り遂に初優勝を、さらに全日本総会も制覇して初回の日本一の座を獲得した。この時、厚人の山内総務部長の過死というショックがあったが、よい影響があった。そしてむかえた五十二年、V2を目指してスタートを切った。

まず、負けていたゲームを、しめないゲーム結果となつて、まっとうな試合、2位まで勝つて、次は、次のゲームに、この結果、より有効に勝つ、大きな自信を持つことが、できれば、おおいに反響します。

そのうえ、リバウンド数、したがって、対三チカ山崎、

戦までの一週間は、地獄の使者、とでもいえる形相に選手に迫りました。そうすると、いよいよ、気分をきめ、オーストラリアの「V2」の念願、より金銭的なことは取れない、という、いましめ、もたれたわけだ。

そのかいて、日本リーグの最終戦では「計算あり」のゲームを演ずることができ、三チカ山崎、いよいよ数字のうえでも、勝つことができた。

日本リーグで「優勝」すること、この困難は、終つて、優勝が立つと、シマとするような出来事の連続だ。

しかし、多くの入道の忍耐と犠牲を要するならば、勝負というものは、なんぞ「世つた」的「出来事」な出来事な、なうから、ついでに考えています。

そして、二週間の休みの間に考えれば、ここまで、犠牲を払ってきたのだから、なんでも「日本の日本一」を決めるオールジャパンに勝つことが、このところ、いかに、だいたい、また新たなフットを燃やして、オールジャパンに向つて練習を開始しました。

〈続く〉

BASKET BALL IS MY LIFE